

2026年3月期 決算補足説明資料



—やすらぎと安心の創造—

証券コード:5237

1. 2026年3月期 連結決算の概要	P. 3
2. 連結貸借対照表前期末比較	P. 9
3. 連結キャッシュ・フローの状況	P.10
4. 連結経営指標（5年間推移）	P.11
5. 設備投資、減価償却費の状況	P.13
6. 2027年3月期 業績予想	P.14
7. 株主還元方針	P.19
8. ESG経営への取り組み	P.20

1. 2026年3月期 連結決算の概要

1-1 連結損益計算書前期比較

(金額:百万円)

	2026/3月期 実績		2025/3月期 実績		増減		2026/3月期 8/7公表予想値	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	達成率
売上高	22,312		21,954		+358		22,500	99.2%
営業利益	1,993	8.9%	1,680	7.7%	+313	+1.2pt	2,070	96.3%
経常利益	2,166	9.7%	1,838	8.4%	+328	+1.3pt	2,190	98.9%
特別利益	105	-	116	-	▲10	-		-
特別損失	1,557	-	248	-	+1,308	-		-
親会社株主に帰属する 当期純利益	605	2.7%	1,156	5.3%	▲551	▲2.6pt	1,070	56.5%

当連結会計年度は、個人消費に持ち直しの動きが見られたものの、米国関税政策の大幅な転換や中東・欧州等の地政学リスクの高まりを背景に全体として不透明な状況で推移しました。このような状況のなか、当連結会計年度の連結業績は、経常利益ベースで前期比増収増益となりました。売上高については、一般建築向けであるアスロック売上高は減少しましたが、住宅向け商品で増収となり連結売上高は増収。営業利益、経常利益は増収の影響等により増益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益については訴訟損失の増加及び減損損失の計上等により減益となりました。

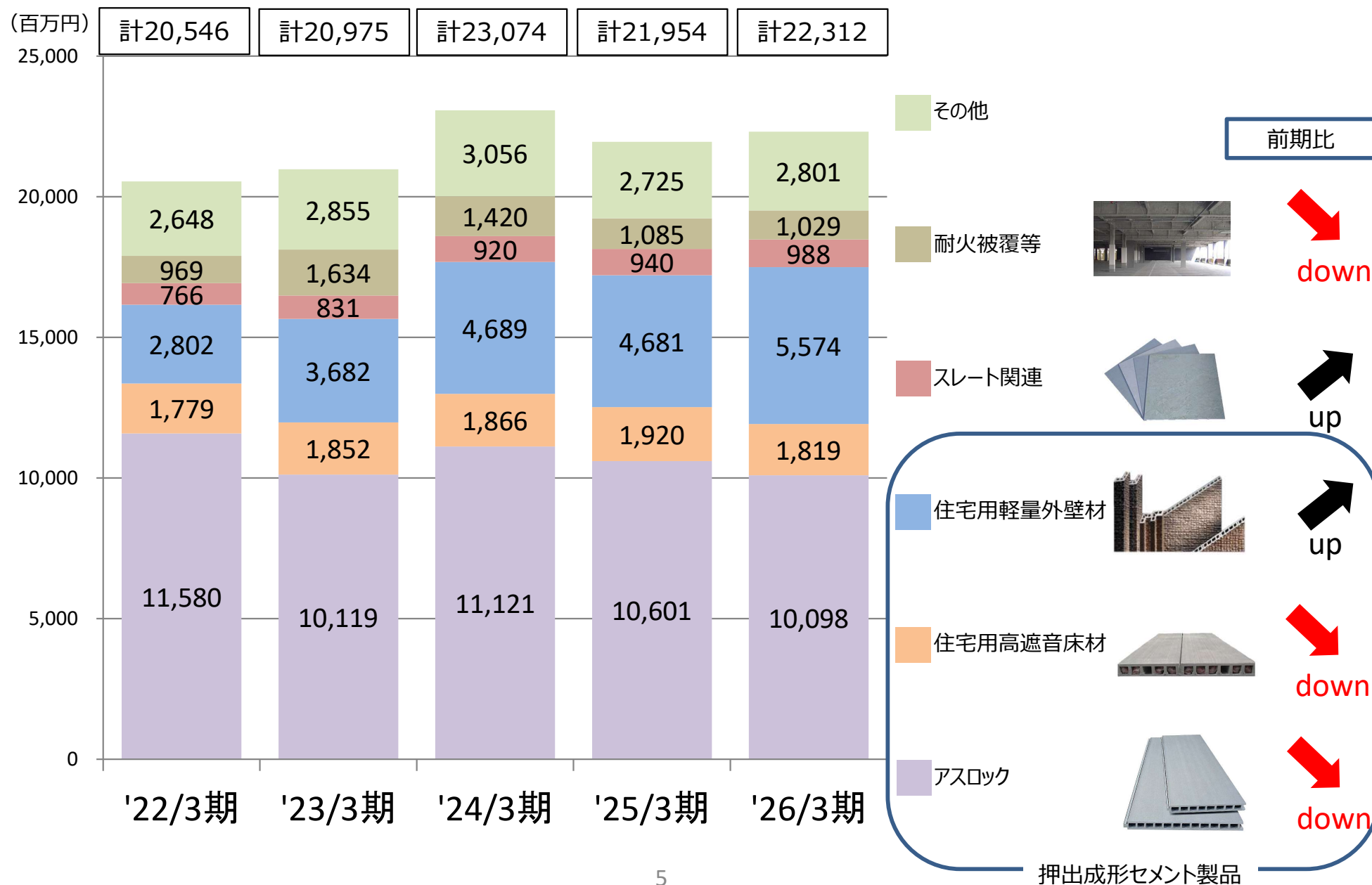
1. 2026年3月期 連結決算の概要

1-2 売上高〔前期比3億58百万円増収の223億12百万円〕

- 当期の建築市場は、潜在的な需要は依然として底堅い一方、人手不足に起因して建築工事の供給制約が一段と強まり、需給バランスを欠く状況で推移しました。これに伴う工期遅延や建築価格高騰による建築計画の中止・延期が当社商品の販売に影響を及ぼし、厳しい事業環境が続いております。
- 主力の一般建築向け押出成形セメント製品「アスロック」については、「工場塗装品」などの高価格商品や、前年度の後半に投入した塗装が不要な低価格帯の商品「澄肌(すみはだ)」、「潤まだら(うるみまだら)」の拡販に注力し、これらの売上高を伸ばしました。販売価格については価格改定が浸透したことより増収要因となりましたが、上記の厳しい事業環境から、アスロック売上高は前期比5億3百万円減収の100億98百万円となりました。
- 住宅向け押出成形セメント板については、「住宅用高遮音床材」は前期比1億円の減収となりましたが、「住宅用軽量外壁材」は堅調に推移し、前期比8億93百万円増となり、合わせて7億93百万円増収の73億94百万円となりました。押出成形セメント板合計では前期比2億89百万円増収の174億92百万円となりました。
- スレートボードは、セメントの素材感を活かした内装用ボード「ナチュラルレ」の商品バリエーションを追加したこと等から「ナチュラルレ」売上高は前期を上回り、前期比48百万円増収の9億88百万円となりました。
- 工事については、アスロック工事の増加等により前期比5億88百万円増収となりました。

1. 2026年3月期 連結決算の概要

1-2 売上高 [連結品種別売上高推移]

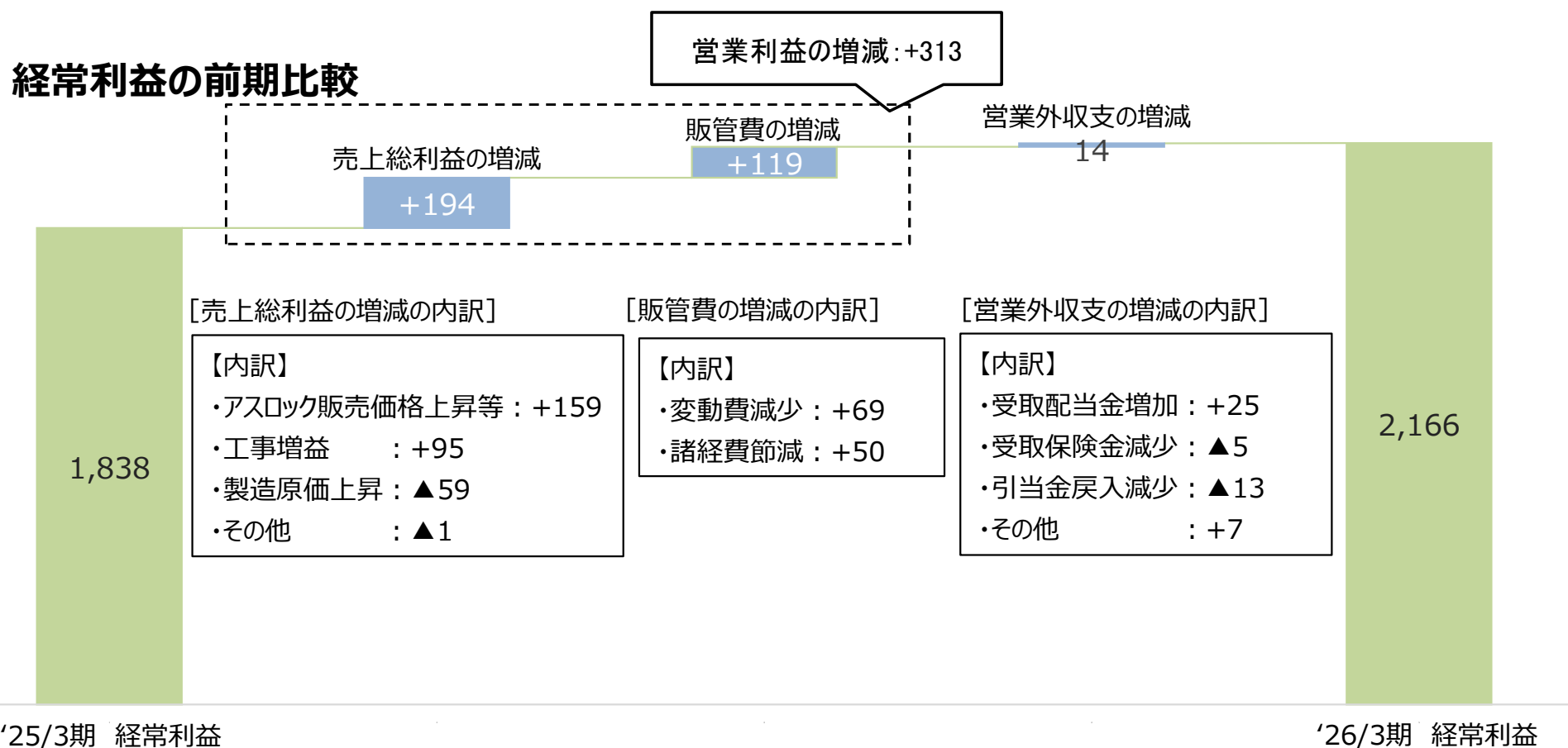


1. 2026年3月期 連結決算の概要

1-3 各段階利益

[営業利益 前期比3億13百万円増益の19億93百万円]

[経常利益 前期比3億28百万円増益の21億66百万円]



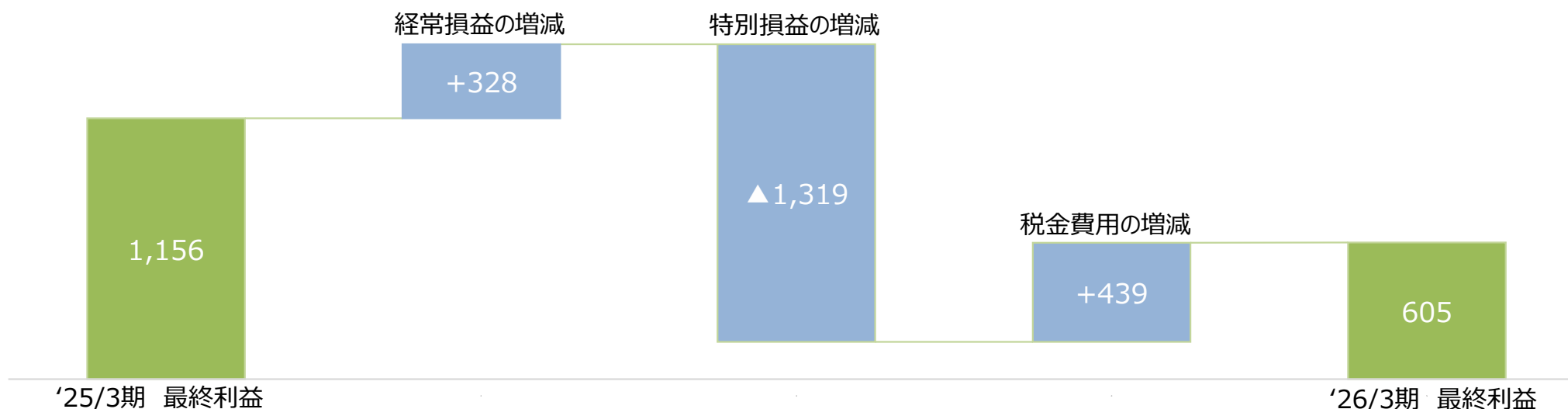
1. 2026年3月期 連結決算の概要

- 当期の原材料・エネルギー価格については、原材料は一貫して上昇、人件費についてもベースアップの実施や外注費上昇によって増加、これらにより製造原価は前期比2億円の増加となりましたが、NNPS（ノザワ・ニュー・プロダクション・システム）改善活動を強力に推進、原材料・エネルギー使用量低減を実現し、原価上昇を0.6億円に留めました。
- 上記の原価上昇により減益となりましたが、アスロック販売価格上昇が増益要因となり、販売口売上総利益は0.9億円の増益となりました。
- 工事については、売上高が5.9億円の増収となり、子会社であるノザワ商事の採算性が改善し工事口売上総利益は0.9億円の増益となりました。
- これらのことから、連結売上総利益は前期比1億94百万円増益の63億11百万円となりました。
- 販管費については、前期比1億19百万円減少の43億17百万円となりました。物流費の値上げによる費用増加要因がありましたが、諸経費節減が奏功したこと等から、売上高比販管費率は0.9ポイントダウンの19.3%となりました。
- これらのことから営業利益は前期比3億13百万円増益の19億93百万円となり、営業利益率は1.2ポイントアップの8.9%となりました。
- 営業外収益は、前期計上の各引当金戻入益11百万円が減少しましたが、受取配当金が25百万円増加したこと等により9百万円増加となりました。
- 営業外費用は、支払利息・手形売却費が減少したこと等により、前期比4百万円減少となりました。
- これらを併せた営業外収支は前期比14百万円好転し、経常利益は、前期比3億28百万円増益の21億66百万円となりました。

1. 2026年3月期 連結決算の概要

〔親会社株主に帰属する当期純利益 前期比5億51百万円減益の6億5百万円〕

最終利益の前期比較



- 特別利益は前期比10百万円減少の1億5百万円となりました。前期に為替換算調整勘定取崩益15百万円を計上していたことによります。
- 特別損失は前期比13億8百万円増加の15億57百万円となりました。主に、訴訟損失の9億48百万円増加と、「マインマグ」製品の事業環境の変化に伴う減損損失2億71百万円及び棚卸資産評価損91百万円を計上したことによります。
- これらの結果、特別損益は14億51百万円の損失となり、前期比13億19百万円悪化となりました。
- 上記に税金費用を加味し、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比5億51百万円減益の6億5百万円となりました。

2. 連結貸借対照表前期末比較

【連結貸借対照表 主な前期末比増減】

科目	増減額	科目	(百万円) 増減額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	▲1,032	支払手形及び買掛金	▲495
受取手形及び売掛金等	▲1,198	未払法人税等	▲317
電子記録債権	+1,590	賞与引当金	+3
棚卸資産		その他	+125
商品及び製品・仕掛品	▲56	計	▲684
原材料及び貯蔵品	+3	固定負債	
未成工事支出金	+13	退職給付に係る負債	▲193
その他	+138	訴訟損失引当金	▲377
計	▲540	繰延税金負債	+350
固定資産		その他	▲149
有形固定資産	▲367	計	▲369
無形固定資産	▲40	負債計	▲1,054
投資有価証券	+1,308	純資産	
その他	▲148	資本剰余金	+127
計	+751	利益剰余金	▲51
		自己株式	+68
		その他有価証券評価差額金	+843
		その他	+276
		純資産計	+1,265
資産計	+210	負債純資産計	+210

【総資産の増減】

総資産は前期末比2.1億円増加。主に現金及び預金が10.3億円減少、投資有価証券が13.0億円増加したことによります。

【負債の増減】

負債は前期末比10.5億円減少。主に繰延税金負債が3.5億円増加、訴訟損失引当金が3.7億円、流動負債が6.8億円それぞれ減少したことによります。

【純資産の増減】

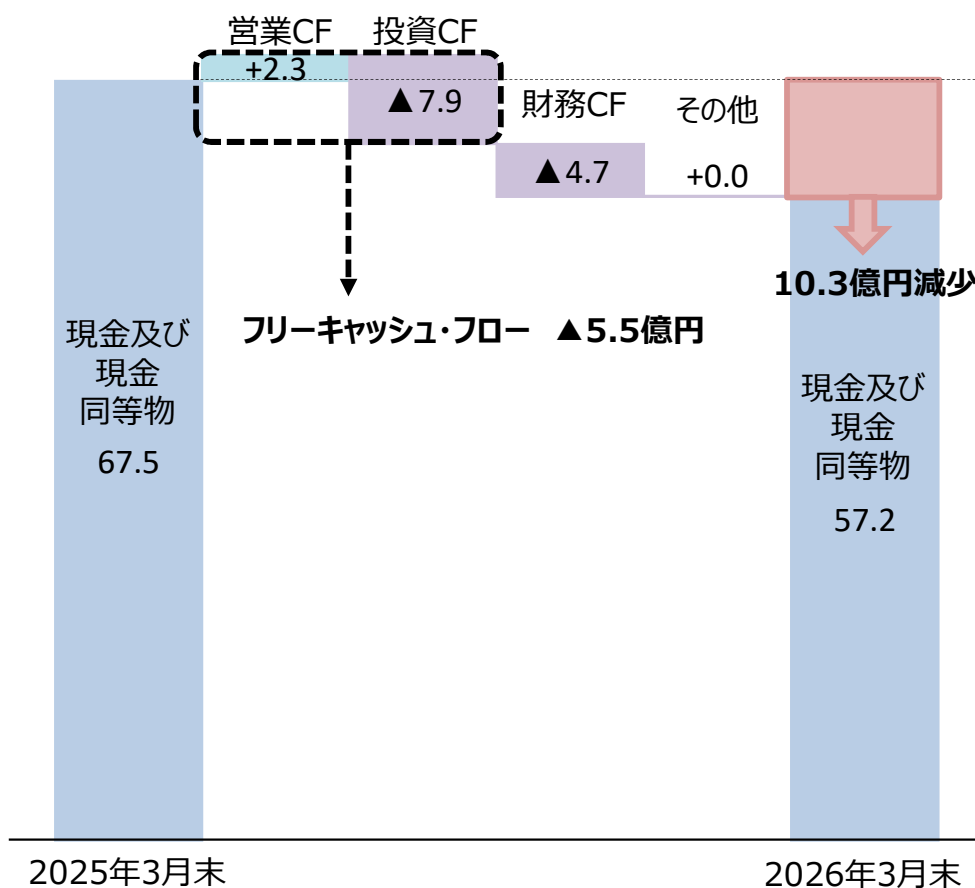
純資産は前期末比12.6億円増加。主にその他有価証券評価差額金が8.4億円増加したことによります。

3. 連結キャッシュ・フローの状況

- 営業キャッシュ・フローは2.3億円の増加、投資キャッシュ・フローは7.9億円の減少となり、フリーキャッシュ・フローは5.5億円の減少。財務キャッシュ・フローは4.7億円の減少。
- 上記の結果、当期末の現金及び現金同等物は前期末比10.3億円減少の57.2億円。

【現金及び現金同等物の増減内訳】

(億円)



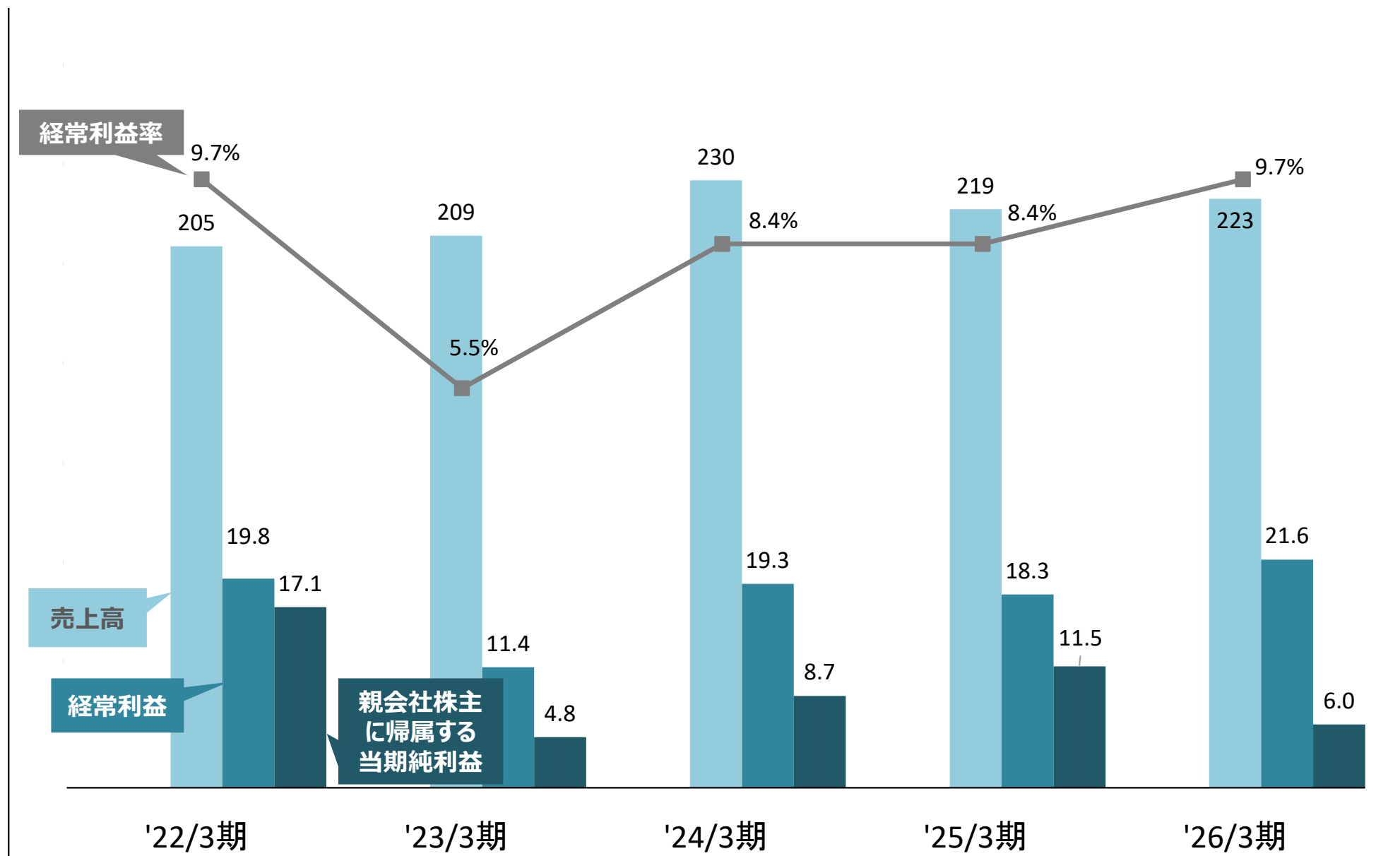
【連結キャッシュ・フロー計算書 概要】

(百万円)

項目	金額	備考
税金等調整前当期純利益	715	
減価償却費	828	
売上債権の増減額	▲304	
棚卸資産の増減額	▲52	
仕入債務の増減額	▲257	
その他	▲694	
営業活動によるキャッシュ・フロー計	236	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲790	主に有形固定資産の取得
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲478	主に配当金の支払い

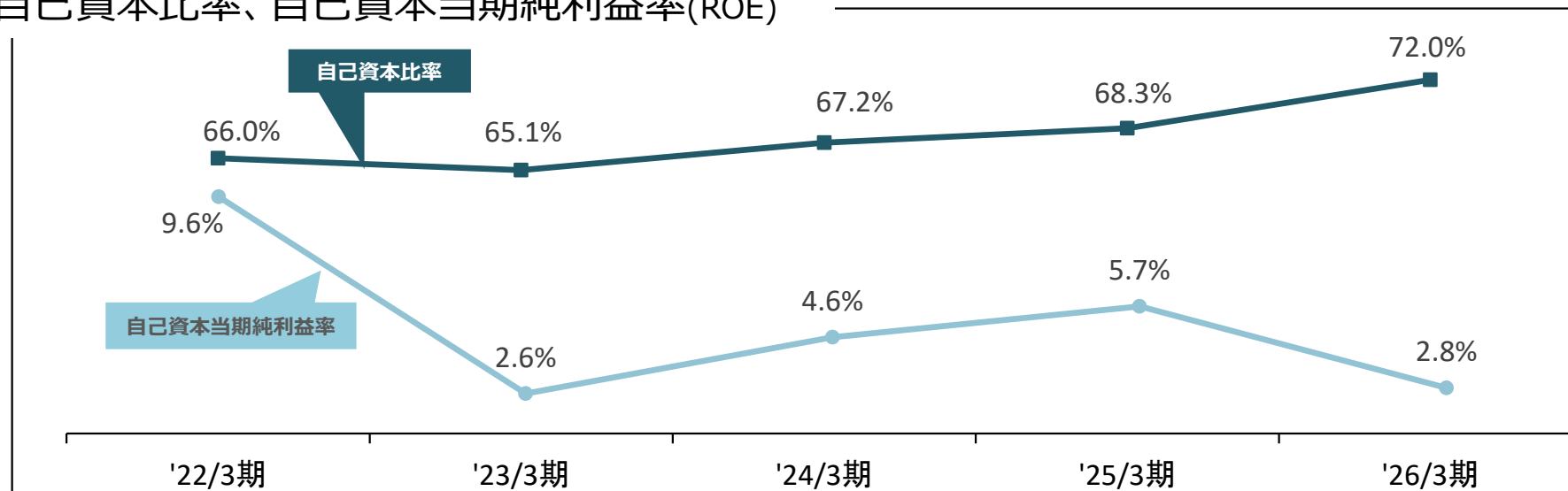
4. 連結経営指標（5年間推移）

売上高、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益（億円）並びに経常利益率（%）

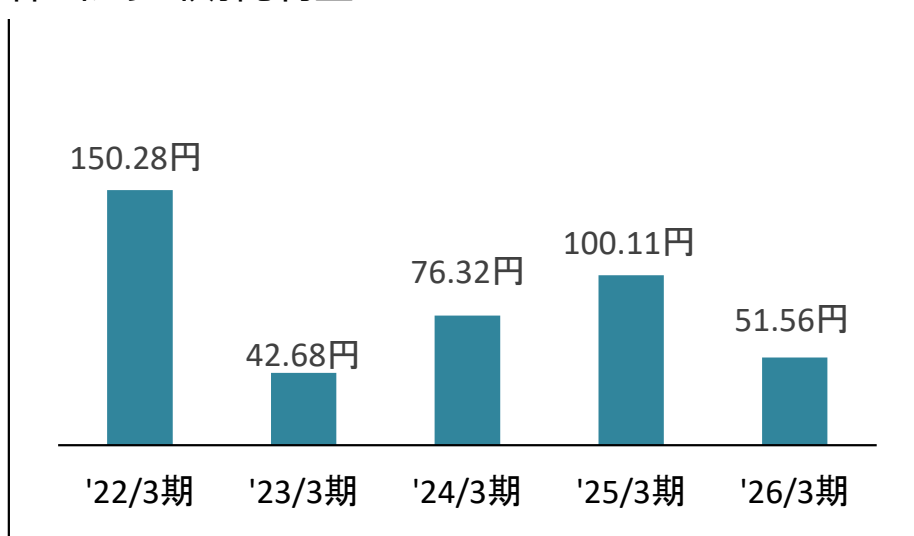


4. 連結経営指標（5年間推移）

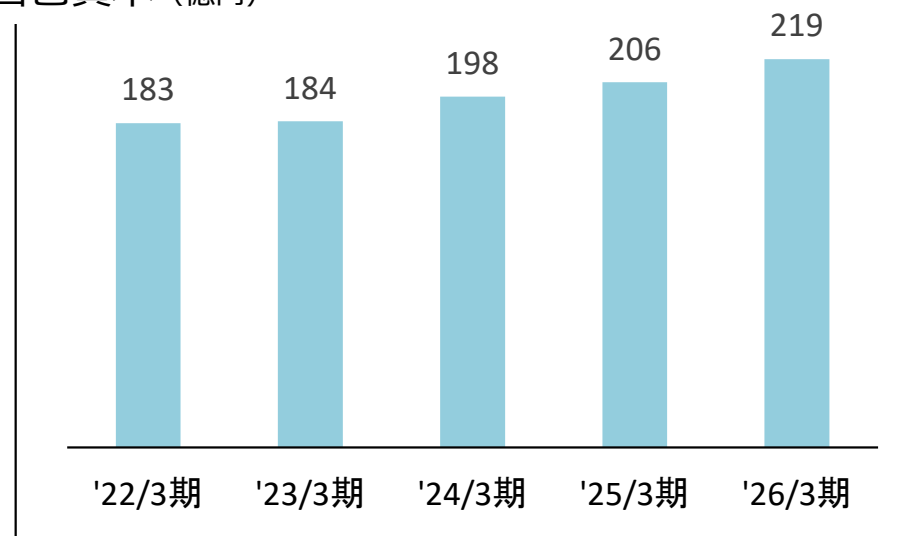
自己資本比率、自己資本当期純利益率(ROE)



1株当たり当期純利益

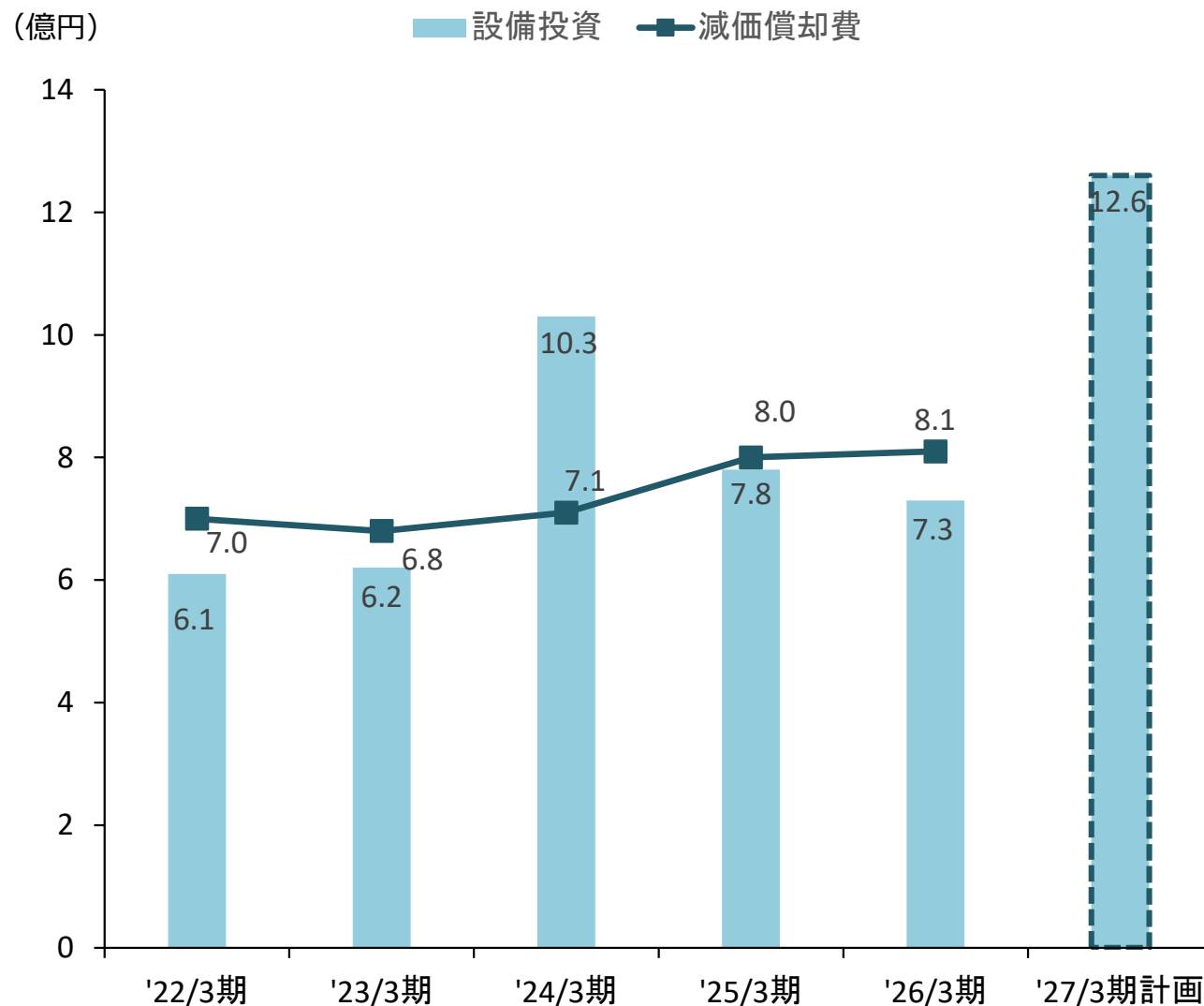


自己資本（億円）



5. 設備投資、減価償却費の状況

【設備投資、減価償却費の推移】



■ 主な設備投資

('26/3期)

- ・ 設備更新

('27/3期 計画)

- ・ 能力増強
- ・ 設備更新

6. 2027年3月期 業績予想

(金額:百万円)

	2027/3月期 予想				2026/3月期 実績				増減			
	第2四半期		通期		第2四半期		通期		第2四半期		通期	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率
売上高	11,200		22,700		11,572		22,312		▲372		+387	
営業利益	910	8.1%	2,170	9.6%	1,116	9.7%	1,993	8.9%	▲206	▲ 1.6pt	+176	+0.7pt
経常利益	1,060	9.5%	2,370	10.4%	1,213	10.5%	2,166	9.7%	▲153	▲ 1.0pt	+203	+0.7pt
親会社株主に帰属 する当期純利益	690	6.2%	1,560	6.9%	454	3.9%	605	2.7%	+235	+2.3pt	+954	+4.2pt

6. 2027年3月期 業績予想

【上期業績見込】

売上高

- 前期である2026年3月期は、人手不足に起因して建築工事の供給制約が一段と強まり、需給バランスを欠く状況で推移、これに伴う工期遅延や建築価格高騰による建築計画の中止・延期が、一般建築向け「アスロック」の販売に影響を及ぼしており、2027年3月期においてもこの傾向が続くと見ております。また、住宅向け商品売上高についても前年同期を下回る見通しです。
- 工事売上高についても前年同期を下回る見込みであり、これらのことから連結売上高は3億72百万円減収の112億円を見込んでおります。

利益

- 現下の中東情勢の影響等により、原材料・エネルギー価格や物流費がさらに上昇、また人件費についても上昇していくと見込まれ、この影響により減益となると見ております。
- 営業利益は前年同期比2億6百万円減益となる9億10百万円、経常利益は1億53百万円減益となる10億60百万円を見込んでおります。親会社株主に帰属する中間純利益については、前期に訴訟損失を7億76百万円計上していたこと等から、前年同期比2億35百万円増益となる6億90百万円を見込んでおります。

6. 2027年3月期 業績予想

【下期業績見込】

売上高

- 販売数量については一般建築向けアスロック、住宅向け商品ともに上期同様に推移するものと見込まれますが、下期に入り、押出成形セメント製品の販売価格改定効果が表れると見込まれます。
- 工事については上期と同じく前年同期を下回る見込みですが、販売口における価格改定効果により、前年同期比7億59百万円増収の115億円を見込んでおります。

利益

- 上期同様、資源高の影響や物流費増加が続くことが想定されますが、製品販売価格改定効果により営業利益は前年同期比3億83百万円増益となる12億60百万円、経常利益は前年同期比3億56百万円増益となる13億10百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益については、前年同期には減損損失や訴訟損失を計上していた影響により、7億19百万円増益となる8億70百万円を見込んでおります。

6. 2027年3月期 業績予想

【通期業績見込】

- 売上高は前期比1.7%増、3億87百万円増収となる227億円、営業利益は前期比1億76百万円増益となる21億70百万円、経常利益は前期比2億3百万円増益となる23億70百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比9億54百万円増益となる15億60百万円を見込んでおります。
- 2027年3月期の当社グループをとりまく経営環境は、中東情勢の影響拡大によって、原油高によるコストアップや資材調達難に伴う建築工事の停滞が懸念されるなど、日々厳しさを強めております。このような状況のなか、当社グループは我々の使命を果たすべく、今般策定した中期経営計画「NOZAWA NEXT3※」を実行してまいります。
(※ 詳細は本日公表の「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 -やすらぎと安心の創造-」をご参照ください)
- 「志 KOKOROZASHI-Vision」では、災害から守る、快適な住環境の提供、環境保全、人手不足解消という社会課題の解決に貢献する新商品・新工法開発を通じて、当社グループの使命である「やすらぎと安心の創造」を実現するとともに、当社グループの成長を目指してまいります。

6. 2027年3月期 業績予想

【通期業績見込】

- 「実 MINORI-Profit」では、一般建築向け外壁材「アスロック」では、お客様の多様なニーズに対応すべく低価格帯から高価格帯まで商品ラインアップを充実させるとともに、工期を短縮し人手不足解消に貢献する「アスロック 工場塗装品」の拡販、並びに「工場プレ加工」の採用を推進してまいります。また、新事業として、アスロック向け多色仕上げの現場塗装工法「ミルフィア」を開発、子会社である株式会社ノザワ商事の塗装工事事業として新市場を開拓し、売上高・利益増を図ってまいります。スレートボードにおきましても同様に、お客様のニーズに応じた内装用商品の拡充に取り組んでまいります。生産面では、外部環境の不確実性が高まるなか需要変動への機動的な対応とコスト競争力の維持を両立させるべく、柔軟な生産体制を構築してまいります。

また、中東情勢の悪化を受け、より重要性が高まる資材調達について、安定調達、代替資材の活用及びエネルギー使用効率の更なる改善を推進し、利益確保につなげてまいります。

- 「礎 ISHIZUE-Base」では、激変する経営環境のもとで持続的な成長を実現するため、AI活用とDXを積極的に推進し、営業支援ツールの高度化による営業活動時間の確保や、工場における製品検査工程の自動化や各種事務作業のシステム化による業務効率の向上を通じて、生産性と顧客対応力を高めてまいります。人材面においては、当社の持続的な成長を支える基盤として人材の確保・育成及び人事制度改革に積極的に取り組むことにより、組織力強化と人的資本の中長期的な充実を進めてまいります。

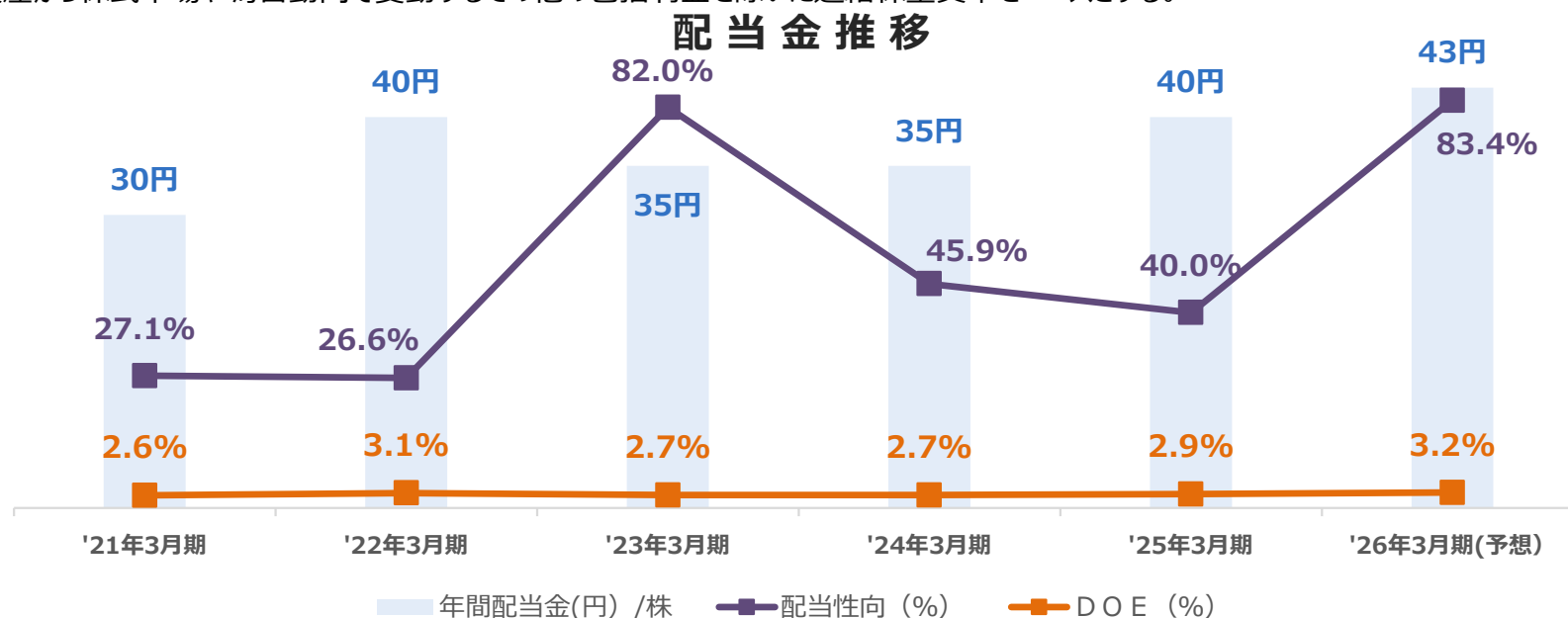
7. 株主還元方針

当社は、業績に応じた利益還元に加え、安定的かつ継続的な配当を実現することで、株主の皆様への還元をさらに強化することを目的に、資本コストや株価を意識した経営を推進し、中長期的に当社株式を保有いただく株主の皆様への利益還元を一層充実させるため、DOE(株主資本配当率)を株主還元の指標として2025年3月期より採用しております。

当社は、将来の設備投資、研究開発に備え、経営基盤及び財務体質を強化すべく内部留保の充実に前提に、連結配当性向30%またはDOE※(連結株主資本配当率)3.0%のいずれか高い方を目標とし、業績に見合った株主への安定的な配当の維持及び適正な利益還元に努めてまいります。

上記の方針を踏まえ、当期の配当につきましては、最終利益が前期比減少の状況ではありますが、3円増配の43円にて、2026年6月開催予定の第166回定時株主総会に付議する予定であります。

※DOE(連結株主資本配当率) = (年間配当総額÷連結株主資本)×100
連結純資産から株式市場や為替動向で変動するその他の包括利益を除いた連結株主資本をベースとする。



8. ESG経営への取り組み

社会（Social）……………社会貢献

「旧居留地YellowGiving2026」に協賛 本社ビルの玄関にミモザの花を飾りました

当社本社所在地である神戸旧居留地にて旧居留地の街を黄色（yellow）く彩るキャンペーン「旧居留地YellowGiving」が開催されました。

（開催日：2026年3月3日～31日）
3月8日の国際女性デーのシンボルカラーであるミモザの黄色は、「感謝」や「希望」を象徴する色で、国際女性デーは、別名「ミモザの日」とも呼ばれています。
当社は、このキャンペーンの開催に協賛し、本社ビル「十五番館」の玄関前にミモザの花を飾りました。



15番館ビルに飾られたミモザの花

8. ESG経営への取り組み

企業統治（**G**overnance）……………**公正・透明な経営**

従業員への譲渡制限付株式割当て

当社及び当社連結子会社の従業員に対し、当社グループの企業価値の継続的な向上を図るインセンティブを与えると共に、株主の皆様との一層の価値共有を進めることで株価上昇及び企業価値向上への貢献意欲を従来以上に高めることを目的として、従業員に対して譲渡制限付株式としての自己株式処分を行い、2026年3月に176,500株を割り当てました。

従業員に対しては、2023年から4年で合計496,100株を割り当てています。

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって大きく異なる可能性があります。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。